

**平成29年度大学教育再生戦略推進費
「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材
(がんプロフェッショナル)」養成プラン」
申請書**

【様式1】

事業の構想等

申請担当大学名 (連携大学名)	京都大学 (三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学、京都薬科大学) 計5大学
事業名 (全角20字以内)	高度がん医療を先導するがん医療人養成

1. 事業の構想 ※事業の全体像を示した資料(ポンチ絵A4横1枚)を末尾に添付すること。

(1) 事業の全体構想

①事業の概要等

<p>〈テーマに関する課題〉</p> <p>わが国は世界に類を見ない超高齢化社会を迎えるとともに生産人口の減少、少子化と社会構造が大きく変わりつつある。一方、科学技術の進歩もめざましく、医療の分野でも新技術が次々生み出されている。わが国が今後も健全な社会を維持するためにも国民の健康長寿は必須であり、中でもわが国の死因の第一位であるがん医療に関しては、最先端の医療技術を活用しながら、ライフステージに合わせた多様な新ニーズに対応できる医療人の育成が求められている。</p>
<p>〈事業の概要〉</p> <p>本事業では、京都大学、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学、京都薬科大学において、プレシジョンメディシンを実現する「ゲノム医療」、これまで対策が不十分であった「希少がんや小児がん」、そして「様々なライフステージとニーズに合わせたがん医療」に対応できる医療人の育成を目指す。ゲノム医療では、ゲノム情報を理解し治療に結びつける医療人の育成に加え、家族性腫瘍などに対応できる臨床遺伝専門医や遺伝カウンセラーの育成を行う。希少がん、小児がんにおいては、病態解明および新規医療開発を荷う医療人を育成する。現在のがん医療は、社会構造の変化にも大きく影響されており、様々なライフステージとニーズに合わせたがん医療の提供が必要になってきた。特に、ロボット手術や高精度放射線治療など最先端の治療を担う人材に加え、がんの診断時から緩和医療を担える人材を育成し、幅広い領域の医療人育成とがん医療の発展に貢献する。</p>

②大学・学部等の教育理念・使命(ミッション)・人材養成目的との関係

<p>京都大学は、教育に関する基本理念として「地球社会の調和ある共存に寄与する、優れた研究者と高度の専門能力をもつ人材を育成する」ことを掲げており、また、医学分野のミッションの再定義において、「世界に誇る独創的な役割学術研究を推進する医学研究者及び医学・医療の分野で指導的な役割を果たす医師養成を積極的に推進」すると共に、「再生医療やがん治療など独創的先端の医療の展開を推進」し、「主要な関連病院や近隣の医科大学とのネットワークによる臨床研究の支援や専門医の育成・人事交流などを通じて、地域医療向上のための中核的役割を担う」ことをミッションとして定義している。</p> <p>本事業では、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学、京都薬科大学と連携し、各大学の特色を生かした教育プログラムを構築することにより、がん医療の新たなニーズに対応可能な優れたがん専門医療人材を養成するものであり、京都大学の理念・ミッション等に合致した事業である。</p>

③新規性・独創性

京都大学では、わが国ではじめて精度管理されたクリニカルシーケンスを臨床実装し、わが国におけるゲノム医療を医療現場から牽引している。また、ゲノム医療を実践するための人材育成と遺伝性腫瘍に対する倫理的・臨床的対応にも取り組んでいる。希少がんや原発不明がんなどこれまで診断や治療に苦慮していた領域においても、診療科および職種横断的なチーム医療を積極的に推進するとともにわが国におけるモデルケースを形成している。複雑化するがん医療においては、小児から高齢者まで、そして早期がんから終末期まで様々な社会環境における医療に取り組む必要がある一方で、がん以外の多岐にわたる併存疾患を有する症例も多いことから、多分野にまたがる総合的ながん医療が求められている。これに関する医療の実践と教育は、がん専門病院では対応困難な課題となっており、本事業において5大学連携により推進させる。

④社会との関係（がん患者及びその家族等の視点）

連携する5大学では、一般市民が受講する市民公開講座開催を推進しており、患者やその家族も多く含まれている。また、京都大学では、がん相談室を設置し、積極的に患者および家族から、成人を対象とした相談に加え、小児がんを対象とした相談、がん患者の就労支援や経済的な相談、臨床試験などへの参加の相談など、多様な内容に対応している。さらに、がん患者及びその家族等の視点に立って、がんの予防や緩和ケアなども含めた教育、通院患者や家族を対象とした定期的な勉強会（セミナー）を開催し、より患者・家族に寄り添った相談が受けられるように相談員の教育・育成も行っている。

⑤キャリア教育・キャリア形成支援(男女共同参画,働きやすい職場環境,勤務継続・復帰支援等も含む。)

京都大学では、次代の学術を担える人材を育成するための次世代研究者育成支援事業等を実施するなど、キャリア教育・キャリア形成支援に積極的に取り組んでいる。本事業においても、コースプログラム終了後、自大学や、各地域拠点病院において診療、研究、教育への従事のみならず、グローバルな活動が可能な医療従事者、さらに、国際的な医療従事者として海外のがん研究機関、大学、センター施設等に勤務できるキャリア教育、キャリア形成支援を行う。

⑥達成目標・評価指標

- ・教育プログラム・コースの立ち上げ時期 [平成29年6月]
- ・教育プログラム・コースの実施数 [24件]
[14件 (インテンシブコース)]
- ・教育プログラム・コースの履修者数 [177人]
(29年度35人、30年度34人、31年度37人、32年度34人、33年度37人)
[2,135人 (インテンシブコース)]
(29年度423人、30年度428人、31年度428人、32年度428人、33年度428人)
(履修者数は、様式2において、教育プログラム・コース別に年度別及び対象者別に記載)
- ・本事業に係るシンポジウムやセミナー等の実施数 [5年間で240件・参加者14,400人]
(29年度/40件・2,400人、30年度/50件・3,000人、31年度/50件・3,000人、32年度/50件・3,000人、33年度/50件・3,000人)
- ・がん医療のグローバル展開を見据えた海外の関係機関との連携
MDアンダーソンとの交流プログラムを始め、韓国ソウル大学、国立台湾大学、シンガポール大学等と連携した「合同教育セミナー」 [5年間で15件実施]
海外で活躍する研究者を講師とする特別講演等 [5年間で30件実施]
- ・がん医療人材養成拠点間の枠組みを越えた取り組み [5年間で10件実施]
- ・専門医資格取得者数 [5年間で100名取得]

(2) 教育プログラム・コース → 【様式2】

2. 事業の実現可能性

(1) 事業の運営体制

①事業の実施体制

連携する5大学の事業を効果的に推進させ、事業の責任体制を明確にするため、事業責任者、実習コーディネーター、教育担当コーディネータを置き、事業責任者が招集する事業推進運営委員会を設け、事業の企画立案・実施・評価（外部評価を含む。）の決定を行う。また、各大学においても、養成管理委員会等を設置し、限られた部局・講座等に取り組を任せることがないよう、大学事務局が関与し、研究科長をトップとした全学的な実施体制で取り組む。

②事業の評価体制

外部有識者による外部評価を毎年度実施する。外部評価項目は、「事業評価ガイドラインによる評価項目」を基本として、連携する5大学により設定された「個性や特色、得意分野に応じた固有の達成目標」及び、事業申請書等の年次計画で示された達成目標とする。また、外部評価委員より指摘・改善すべきとされた評価項目については、事業推進委員会において報告し、委員会は課題への対応を次年度の実施計画に反映させる。

③事業の連携体制（連携大学、自治体、地域医療機関、民間企業等との役割分担や連携のメリット等）

連携する5大学の事業推進委員、実習コーディネーター、教育担当コーディネータ及び事務担当者による事業推進運営委員会を年2回開催、また、5大学連携事業として、「5大学連携医療フォーラム」、「5大学連携合同セミナー」を毎年度開催し、5大学間人材交流、多職種交流、国際交流を推進させる。
また、各大学において各地方自治体と連携した「三重県・がん検診制度管理検討委員会」、「三重県・がん患者医療連携会議」、「滋賀県・がん診療連携協議会」、「大阪府・がん診療連携協議会・緩和ケア部会」、「京都府がん医療戦略推進会議・各部会」に取り組み、さらに、地域医療機関、民間企業等と連携した「シンポジウム」、「地域連携ネットワークの構築」を推進させ、多様な新ニーズに対応するがん医療人の養成を推進する。

(2) 取組の継続・事業成果の普及に関する構想等

①取組の継続に関する構想

補助期間終了後も、教育プログラム・コースの継続および本事業が主体となって実施していたシンポジウムやセミナー、グローバル展開を見据えた海外関係機関との連携事業、専門医資格取得の推進等のプログラムを継続するため、インテンシブコースなどの利活用を通して受講料を徴収する等の自己資金確保、民間企業との共同研究、自治体との共同事業、寄附講座の活用により、財源を確保し継続させる。本プログラムで養成される、がん専門医療人の成果、貢献は事業終了後も評価する。

②事業成果の普及に関する計画

多様な新ニーズに対応するがん専門医療人材の養成事業を、広くホームページにより成果を公表し、また、事業概要を作成公表し、がんプロ養成事業の理解とその普及に努める。
さらに、市民公開講座開催の推進、シンポジウムやセミナー等の推進、グローバル展開を見据えた海外の関係機関との連携推進、海外で活躍する研究者を講師とする特別講演等の推進、専門医資格取得の推進、国内外学会、英文・和文誌への研究発表を推進させることにより、事業活動の普及と、今後のわが国のがん医療の発展に繋げる。

3. 年度別の計画

(1) 年度別の計画

29年度	① 6月	多様で専門性が要求される本事業の効果的な運営のため、必要な教員、事務員等を雇用する。
	② 6月～3月	本事業の責任体制を明確し、事業を効果的に運営するため、本事業全体を統括する事業推進運営委員会を開催し、基本計画を協議・決定し、外部評価を実施する。
	③ 6月～3月	多様な新ニーズに対応し、高度がん医療を先導するがん医療人養成のため、教育プログラムを実践する。
	④ 6月～3月	がん専門医療人養成のために、直接必要な教育活動用・事務用の設備備品、消耗品を購入し、養成事業を推進させる。
	⑤ 6月～3月	各コース受入目標人数を達成し、がん専門医療人を養成するため、募集案内、事業概要を作成、また、E-ラーニングシステムの推進、学会発表・論文発表の推進、カンファレンス・専門医取得を推進し、人材養成基盤を強化する。
	⑥ 6月～3月	がん医療のグローバル展開を強化するため、国際的がん研究者・医療人によるセミナー、特別講演の実施、海外がん最先端治療機関や大学との合同セミナー等、国際交流教育プログラムを実施する。
	⑦ 6月～3月	事業を広く国民に周知、理解いただくため、専用ホームページを開設し、広報活動を行う
	⑧ 6月～3月	地域医療機関等と連携した地域医療貢献のため、各種フォーラム、公開講座、セミナー、研修会、研究会を開催する。
30年度	4月より事業開始し、事業の継続性と発展を図る。	
31年度	事業の継続性と発展を図る。	
32年度	自助努力を拡大し、事業の継続性と発展を図る。	
33年度	自助努力を拡大し、事業の継続性と発展を図り、最終成果報告を取りまとめる。	
34年度 [補助期間 終了後]	自助努力により、事業の継続性と発展を図る。	

教育プログラム・コースの概要

大学名等	京都大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	プレジジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース						
対象者	医学専攻 博士課程						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	<p>ゲノム解析技術の進歩により一度に多数のゲノム異常を検出できる時代になり、ゲノム情報の理解と医療への応用がいわゆるPrecision Oncologyにおいて不可欠となりつつある。従ってゲノム医療を実践できる人材の育成は喫緊の課題であり、本教育プログラムでは以下のスキルの有する将来のゲノム医療を担う人材の育成を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ゲノム検査とその結果を正しく解釈できる 2. ゲノム検査の結果に基づき自ら適切な治療計画を立てることができる 3. 患者にゲノム検査結果内容を分かりやすく伝えることができる 4. 偶発的所見・二次的所見(HBOCやLynchなど) に対し適切に対処できる 5. ゲノム医療に関する臨床研究を計画・遂行できる 						
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> ・医学研究科に4年以上在学し、分野科目から24単位以上、大学院教育コース「腫瘍学コース」、「ゲノム・オミックス統計解析コース」のいずれかのコース科目より6単位以上の合計30単位以上を修得し、研究指導を受け、かつ、医学研究科の行う博士論文の審査及び試験に合格すること。 ・本教育プログラム・コースで定める科目について、必修科目10単位以上を履修すること。 ・ゲノム医学研究に関する学位論文と学位修得 						
履修科目等	<p><必修>腫瘍学コース]又は「ゲノム・オミックス統計解析コース」6単位 講義：ゲノム医学（3単位）、腫瘍生物学、臨床腫瘍学（2単位）、臨床薬理学、臨床試験、生物統計、医学英語講義（各1単位）、ゲノム医療OJT演習（10時間） <選択>臨床腫瘍学（4単位）、緩和医療学（2単位）</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<p>京都大学附属病院では2015年4月よりわが国ではじめて網羅的がん遺伝子変異検査を臨床現場に導入し、ゲノム医療に必要な実践的ノウハウを蓄積している。これまで、150例以上の検査を実施し、ゲノム検査の結果について毎週1回、担当医、がん薬物療法専門医、臨床遺伝専門医、病理医、バイオインフォマティシャン、遺伝カウンセラー、ゲノム基礎研究者など、多職種のメンバーが集まるカンファレンスが行われ、これらの場を生かし、十分なon the job trainingを経験できるとともに、学内外のゲノム研究者、倫理研究者との連携による教育体制を構築し、臨床と基礎、社会医学と他領域の知識を兼ね備えた人材の育成が可能である。</p>						
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> ・京都大学の教職員による講義、臨床実習、研究指導 						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床現場におけるゲノム医療の実践と体制整備への貢献 ・ゲノム医療を実践できる医療機関でのキャリアパス ・ゲノム医学の発展を目指した研究開発へ従事 						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医学専攻 博士課程	3	3	3	3	3	15
	計	3	3	3	3	3	15

教育プログラム・コースの概要

大学名等	京都大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース						
対象者	医学専攻 大学院生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	婦人科腫瘍のゲノム異常を理解し、標準的な婦人科腫瘍の診療に加え、遺伝性乳がん卵巣がんのような、遺伝的に発生する婦人科癌に対しても、家族も含めたカウンセリングや、適切な薬剤選択ができる医師を養成する。さらに、キナーゼ阻害剤や免疫チェックポイント阻害剤など、新規治療薬の動向について理解し、みずから臨床試験を立案して治療法を開発できる医師を養成する。						
修了要件・履修方法	研究指導科目24単位と大学院教育コース6単位を取得すること。かつ、医学研究科が行う博士論文の審査及び試験に合格すること。 がん治療認定医を取得すること。						
履修科目等	<必修>[教育コース]腫瘍学コース、ゲノム・オミックス統計解析学 6単位 [遺伝カウンセリング] 臨床遺伝専門医取得に必要な遺伝カウンセリング、あるいはロールプレイ実習 [学術集会の出席] 日本人類遺伝学会学術集会 2回、日本婦人科腫瘍学会学術集会 3回 [学術業績] ・筆頭者として婦人科腫瘍に関する研究発表（論文 1編を含む）を2件 ・臨床遺伝に関する論文2編、あるいは論文1編および学会発表2件 [チーム医療教育] 婦人科カンファレンス						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	京都大学婦人科学産科学教室は、これまで独自に、婦人科腫瘍のゲノム異常の解析を通じて、薬物療法や免疫療法のバイオマーカー探索を行い、婦人科腫瘍の個別化医療の開発を行ってきた。本コースでは、婦人科腫瘍におけるゲノム異常の深い理解を通じて、標準的な診療に加え、新規治療法を開発できる医師を育成する。						
指導体制	京都大学婦人科学産科学教室において、婦人科腫瘍のゲノム解析に基づく個別化医療の開発は主要テーマであり、同テーマを専門とする教授、講師、助教が、がんプロ学生のメンターとなり指導を行う。 京都大学医学部附属病院は、下記の認定施設となっており、がん治療認定医、臨床遺伝専門医、婦人科腫瘍専門医取得のための研修が可能である。 ・がん治療認定医機構認定研修施設、・臨床遺伝専門医認定研修施設 ・婦人科腫瘍指定修練施設						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	コース修了までに、がん治療認定医を取得し、その後、婦人科腫瘍専門医取得および臨床遺伝専門医を目指す。そして、婦人科腫瘍を多く取り扱う施設に勤務し、婦人科腫瘍指導医になることを目指す。						
受入開始時期	平成29年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医学専攻 大学院生	1	1	1	1	1	5
	計	1	1	1	1	1	5

教育プログラム・コースの概要

大学名等	三重大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース						
対象者	生命医科学専攻博士課程						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	婦人科腫瘍に関する手術療法を中心とした集学的治療の習得に加え、遺伝性乳癌・卵巣癌症候群などのゲノム異常を理解し、適切に対処できる医師を養成する。						
修了要件・履修方法	分野科目24単位、コース共通科目6単位以上、合計30単位以上を修得すること、かつ、医学研究科が行う博士論文の審査試験に合格すること。						
履修科目等	<コース共通科目> 腫瘍学総論より2単位、腫瘍学各論より4単位、合計6単位。 <分野科目> 腫瘍分野コース24単位以上 [遺伝カウンセリング] 遺伝カウンセリングに必要な知識、実技の取得 臨床遺伝専門医による講義 [学術業績] 婦人科腫瘍に関する研究論文を2件（1件は筆頭者） 婦人科腫瘍に関する研究発表を3件 [学術集会の出席] 日本婦人科腫瘍学会、日本癌治療学会への出席、緩和ケア研修会への出席 日本婦人科腫瘍学会・教育プログラム3回 日本癌治療学会・教育セミナー1回 [集学的治療教育] 婦人科腫瘍カンファレンスへの出席						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	婦人科腫瘍のゲノム異常を理解し、遺伝子異常を有する健常者に対しても、遺伝カウンセリングを行い予防的卵巣切除も実践できる医師を育成する。また、三重大学内の乳腺外科とも協力し、遺伝性乳癌・卵巣癌症候群に関しても臨床的知識を習得する。						
指導体制	三重大学では、婦人科腫瘍専門医も多数在籍し、臨床遺伝専門医も在籍し、婦人科腫瘍のゲノム異常に関する個別化医療を指導する体制はと整っている。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	婦人科腫瘍専門医、細胞診指導医を取得し、がんセンターや大学病院、また、がん診療連携拠点病院などで婦人科腫瘍医として癌治療を担う医師となる。						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	生命医科学専攻博士課程	1	1	1	1	1	5
	計	1	1	1	1	1	5

教育プログラム・コースの概要

大学名等	滋賀医科大学大学院医学系研究科						
教育プログラム・コース名	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース						
対象者	医学専攻 博士課程						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	抗がん薬の多様化が進み、対象患者や治療標的の細分化が進む昨今にあつては、個々の患者に合わせて最適な薬物及び投与量を決定する個別化薬物療法は非常に重要である。特定の抗がん薬ではゲノム情報の個別化薬物療法への応用が進んでいるものの、その情報を取り扱う薬剤師の知識や技術は充分とはいえない。本コースでは、ゲノム情報を適切に解析し、臨床応用することができる薬剤師の養成を目指す。						
修了要件・履修方法	大学院に4年以上在学し、共通必修科目から6単位、共通選択科目から4単位以上、コース必修科目から16単位、コース選択科目から4単位以上、合計30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。						
履修科目等	<共通必修科目>がん基礎学講義（2単位）、ゲノム医学講義（2単位）、緩和ケア学講義（2単位） <コース必修科目>臨床腫瘍薬剤学総論講義（4単位）、臨床腫瘍薬剤学特論演習（4単位）、臨床腫瘍薬剤学実習（8単位） <共通選択科目>腫瘍薬剤学講義（2単位）、放射線腫瘍学講義（2単位）、生命倫理学講義（2単位）、医療統計学演習（2単位） <コース選択科目>臨床腫瘍学実習（4単位）、がんゲノム医療学実習（4単位）、遺伝統計学実習（4単位）、バイオインフォマティクス実習（4単位） 【チーム医療教育：診療科カンファレンスへ随時参加】						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	薬剤部では、ゲノム薬理的解析に基づく個別化投与設計に関連する研究に加え、全国に先駆けて薬物代謝酵素などの遺伝子多型解析を薬剤業務の一環として行っている。本コースでは、博士課程在籍学生を対象としたゲノム薬理研究を予定している。薬剤師によるゲノム研究を実践することによって、ゲノム医療の裾野が広がり、薬剤師のゲノム医療への参画に対する意識醸成が期待される。						
指導体制	薬剤部でのゲノム薬理研究及び遺伝子多型解析業務の経験を活かし、ゲノム薬理学に精通した教職員が指導にあたる。チーム医療教育としては、腫瘍センターにおけるカンファレンス等への参加により、多職種連携の重要性を実地で学ぶ。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コース修了者は薬学分野におけるゲノム情報に基づく個別化医療の推進させる原動力としての活躍を期待する。特に、ゲノム医療に関連するエビデンス創出のための基礎-臨床研究の主導など研究分野における貢献に加え、個別化医療実現に向けた地域医療の中核としての活躍も期待される。						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医学専攻 博士課程	1	1	1	1	1	5
	計	1	1	1	1	1	5

教育プログラム・コースの概要

大学名等	滋賀医科大学大学院医学系研究科						
教育プログラム・コース名	先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース						
対象者	医学専攻 博士課程						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	がんゲノム医療に精通したチーム医療を担う医療従事者（医師、医療スタッフ等）であるとともに、ゲノム情報を用いたがんの薬物療法や緩和ケア等及び先進的がん医療開発に従事できる高度かつ学際的能力を備えた人材を育成。						
修了要件・履修方法	大学院に4年以上在学し、共通必修科目から6単位、共通選択科目から4単位以上、コース必修科目から16単位、コース選択科目から4単位以上、合計30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。						
履修科目等	<p><共通必修科目>がん基礎学講義（2単位）、ゲノム医学講義（2単位）、緩和ケア学講義（2単位）</p> <p><コース必修科目>がん薬物療法学総論講義（4単位）、がん薬物療法学特論演習（4単位）、がん薬物療法学実習（8単位）</p> <p><共通選択科目>腫瘍薬剤学講義（2単位）、放射線腫瘍学講義（2単位）、生命倫理学講義（2単位）、医療統計学演習（2単位）</p> <p><コース選択科目>臨床腫瘍学実習（4単位）、がんゲノム医療学実習（4単位）、遺伝統計学実習（4単位）、バイオインフォマティクス実習（4単位）、ほか18科目</p> <p>【チーム医療教育：腫瘍内科カンファレンスへの参加】</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	がんのゲノム医療に関わる専門医療従事者育成カリキュラムを発展させ、がんの分子病態理解に基づく難治がんに対する先進的がん医療の開発と個別化医療に向けた基礎研究に従事するとともに、滋賀医科大学医学部附属病院における先端的がん医療（がん薬物療法、緩和ケア、チーム医療等）やゲノム情報に基づく独自中の創薬研究（新規抗がん薬、がん免疫療法等）及び個別化医療に向けたがんバイオマーカー開発研究の実務に携わるOn the job training (OJT)を受ける。また、国内外の研究者・医療関係者（連携大学・研究所：工学、生命科学全般、人文科学含む）、医薬品開発者（製薬企業含む）、行政、地域医療機関関係者との有機的連携を介した実習を行う。これらを通じて、がんゲノム医学に基づいた先進的がん医療開発と個別化医療、ライフステージに応じた包括的・全人的がん医療を直接かつ多面的に習得、実践できる教育内容となっている。						
指導体制	滋賀医科大学及び連携機関の教員、医療スタッフ等による講義・実習・研究指導						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	<ul style="list-style-type: none"> ・がん医療現場でのゲノム医療の円滑な推進や普及を担う業務への従事 ・ゲノム情報に基づくがん薬物療法や緩和ケア等の専門医療への従事 ・ゲノム情報に基づくがん医療開発研究への従事 ・ゲノム情報に基づくがん医療開発支援（探索医療、治験等）への従事 ・専門医療資格等の取得、がん関係研修修了（がん薬物療法専門医、がん治療認定医、緩和ケア認定医、臨床遺伝専門医、専門・認定・特定看護師等） 						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医学専攻 博士課程	1	1	1	1	1	5
	計	1	1	1	1	1	5

教育プログラム・コースの概要

大学名等	大阪医科大学大学院医学科医学専攻						
教育プログラム・コース名	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース						
対象者	医学専攻博士課程						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	<p>遺伝性乳癌卵巣癌症候群をはじめとする婦人科腫瘍に関するゲノム異常に関連して、診断においての遺伝子検査及び患者本人と病院のカウンセリングを手術療法・抗がん剤治療、放射線治療等における治療法を習得して、個々の患者に適した手術療法を含めた治療ができる人材</p> <p>ゲノム医療に必要な手術療法、抗がん剤治療、放射線治療等を場合により適宜組み合わせた最先端の治療法をマスターし、個々の患者にあった最善の手術治療を含めた集学的治療ができる人材</p> <p>ゲノム医療従事に関連して卵巣機能障害等への理解と知識を持った人材</p>						
修了要件・履修方法	<p>所定の授業単位31単位以上（統合講義10単位、基礎研究法実習1単位含む）を習得するとともに、必要な研究指導を受けた上、ゲノム医療を勘案した学位論文を提出し、かつ最終試験に合格すること。 キャンサーボードへの参加、骨転移カンファレンスへの参加、妊孕性温存カンファレンスへの参加、三島圏多職種癌研究会への参加発表を行う。</p>						
履修科目等	<p><必修科目> 統合講義10単位、基礎研究法実習1単位、講義（4単位）、演習（4単位）実習（12単位）</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<p>大阪医科大学産婦人科学教室において、婦人科腫瘍に関するゲノム解析及び手術手技などの修得のために研修会の開催や手術手技の標準化を進めながらがん専門医を目指す若手医師のための教育の質向上を目指すこと。多職種からなるカンファス<カンサーボード>等に参加する中でチーム医療に関する内容について認識し、その場を生かした教育体制で、他の領域含めた治療についても習得することが可能である。</p>						
指導体制	<p>大阪医科大学産婦人科教室において、婦人科腫瘍のゲノム解析の観点からがん治療に関する講義を織り交ぜ、関連する診療科との連携を行い、多職種からなるチーム医療教育を必須とする体制でがんプロ院生の指導体制で指導を行う。がんセンターで研究会カンファレンスが定期的に行われ、がんプロ院生もスタッフとして加わり、連携病院や関連施設からの参加者からの最新情報含めた事例等を習得する体制で指導も行う。</p>						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	<p>ゲノム医療の実践に関連してコース修了までのがん治療認定医、婦人科腫瘍専門医取得を目指すことになる。</p>						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医学専攻博士課程	1	1	1	1	1	5
	計	1	1	1	1	1	5

教育プログラム・コースの概要

大学名等	京都大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース						
対象者	医学専攻博士課程						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	小児・AYA世代のがんにおける腫瘍生物学と最新の診断技術／治療戦略に精通した上で、さらなる治癒率向上を目指した新規診断法開発や、効果的でより合併症の少ない治療法開発をも遂行できる医療人を養成する。						
修了要件・履修方法	医学研究科に4年以上在学し、分野科目から24単位以上、大学院教育コース「腫瘍学コース」、「ゲノム・オミックス統計解析コース」のいずれかのコース科目より6単位以上の合計30単位以上を修得し、研究指導を受け、かつ、医学研究科の行う博士論文の審査及び試験に合格すること。						
履修科目等	「腫瘍学コース」、「ゲノム・オミックス統計解析コース」のいずれかのコース科目より6単位 講義：ゲノム医学（3単位）、腫瘍生物学、臨床腫瘍学（2単位） チーム医療教育：小児科血液腫瘍カンファレンス、小児脳腫瘍カンファレンス、BMTカンファレンス						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	当院は小児がん拠点病院であり、全ての小児血液・がん疾患に対応していることから、幅広い診断法、治療法を体得することが可能である。また、小児科スタッフは全国組織であるJCCG（日本小児がんグループ）において、各種疾患委員や中央診断委員を務めていることから、最先端の診断、治療戦略に明るく、臨床におけるニーズからの研究に結びつけやすい。さらに、医学研究科人間健康科学系専攻の研究室と連携した基礎研究を推進しており、最先端の診断、治療を目指す医療人養成が可能である。						
指導体制	小児科血液腫瘍グループスタッフ（小児血液・がん専門医、血液専門医）および京大人間健康科学系専攻スタッフが連携をとりながら、臨床におけるon the job training、基礎研究、論文指導などを行う						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	小児血液がん専門医・指導医 国内外の血液・がんの研究機関へのポスドク留学						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医学専攻博士課程	2	2	2	2	2	10
	計	2	2	2	2	2	10

教育プログラム・コースの概要

大学名等	京都大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース						
対象者	医学専攻博士課程						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	○放射線治療に必要な腫瘍学、医学物理学、生物学に知識を総合的に習得する ○高度で安全な放射線治療を可能とするチーム医療に貢献できる責任感および協調性 ○希少がんならびに小児がんに対する放射線治療、高精度放射線治療を推進し、新たな放射線治療法の開発を主導できる						
修了要件・履修方法	医学研究科に4年以上在学し、分野科目から24単位以上、大学院教育コース「腫瘍学コース」、「医工情報学連携コース」のいずれかのコース科目より6単位以上の合計30単位以上を修得し、研究指導を受け、かつ、医学研究科の行う博士論文の審査及び試験に合格すること。放射線治療専門医を取得すること。						
履修科目等	大学院コースの腫瘍学あるいは医工情報学連携コース(6単位) 臨床腫瘍学(4単位)、医学物理学(1単位)、放射線治療計画・計測学実習(1単位)、医学放射線計測学(1単位)、放射線治療学(1単位)、他 チーム医療教育：小児・脳腫瘍エックンファレンス、希少がん・原発不明がんエックンファレンスなど、他科との共同カンファレンスへの出席が必須。						
教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	○希少がんに対する放射線治療の症例が多く、十分な教育が可能。 ○当院は、最新の高精度放射線治療を施行できる日本放射線腫瘍学会認定施設であり、悪性胸膜中皮腫、肛門管癌、嗅神経芽細胞腫の強度変調放射線治療(IMRT)など、国内でも実施施設の少ない希少がんの特殊放射線治療の教育が可能。 ○小児がん拠点病院に指定されており、小児がんの症例数が豊富であり、小児がんの放射線治療に関する重点的な教育が可能。 ○集学的診療ユニットを開設し、小児脳腫瘍ユニットがあり、初診から複数の診療科が治療方針の決定に参画し、綿密な検討の後に放射線治療の適応を決定しており、他科との連携を緊密にしながら、希少がん、小児がんの放射線治療の適応について教育が可能。 ○小児の頭髪保護を目指した強度変調回転照射(VMAT)による全脳全脊髄照射を行うなど、小児への侵襲の少ない放射線治療の方法の開発に関する指導が可能。						
指導体制	当放射線治療科は、スタッフ8名が配属された大学院生の指導にあたり、全国放射線治療施設の中でも非常に充実した指導体制を取っている。さらに各臓器がんに対して、担当の専任スタッフを配置しているため、きめ細かい指導が可能である。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	1. コース修了後、京都大学にて診療・研究・教育を続ける。2. 各地域のがん拠点病院、がんセンター、大学病院に赴任し診療を続ける。3. 海外の大学、がんセンターに留学し、海外にて最新の放射線治療に関する診療・研究を行い、帰国後日本の放射線治療・がん治療の発展に貢献する。						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医学専攻博士課程	3	3	3	3	3	15
	計	3	3	3	3	3	15

教育プログラム・コースの概要

大学名等	三重大学大学院医学系研究科						
教育プログラム・コース名	小児がん治療専門医養成コース						
対象者	生命医科学専攻博士課程						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	小児がんの病態把握、基本的診断技術の習得、他科及び多職種と連携した集学的治療を実践できる医療人を旨す。また、小児がんを対象としていることから、長期フォローアップ診療による晩期合併症も実践できる人材を育成する。						
修了要件・履修方法	分野科目24単位、コース科目6単位以上、合計30単位以上を修得し、本大学院が行う学位論文審査に合格すること。						
履修科目等	<コース共通科目・必須> 腫瘍学総論（2単位）、腫瘍学各論（4単位） <分野科目> 小児腫瘍学A, B（12単位）、小児がん集学的治療A, B（12単位）などの分野科目より、演習、実験、実習としての単位を24単位を取得する。他に小児がんトータルケアにかかわる各種講習会を受講することでも単位取得可能。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	当院は小児がん拠点病院であり、県内の小児血液・がん疾患のすべてに対応していることから、診断方法、標準的・集学的治療を習得することが可能である。また、小児がんの2割は依然完治困難であり、終末期医療を要することから、当院では小児トータルケアセンター及び緩和ケアチームと協力し、在宅を含む小児がん終末期医療について習得する環境が整備されている。						
指導体制	小児科血液腫瘍グループ（小児血液・がん専門医・指導医、造血細胞移植認定医、血液専門医・指導医から構成）及び小児血液小児トータルケアセンターが連携し、臨床診断・治療、基礎研究、論文指導を実施する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	小児血液がん専門医・指導医、造血細胞医療認定医、小児血液がん研究機関への留学（国内外）						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	生命医科学専攻博士課程	1	1	1	1	1	5
	計	1	1	1	1	1	5

教育プログラム・コースの概要

大学名等	滋賀医科大学大学院医学系研究科						
教育プログラム・コース名	小児血液がんの診断法・治療法開発を担う医療従事者養成コース						
対象者	医学専攻 博士課程						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	小児血液がんにおける、最新の診断法と最新の治療を熟知し、それを基にして、さらなる小児がんの治癒生存率の向上、晩期合併症の軽減をはかるための、新規診断法の開発や、効果的な治療法の開発を遂行できる医療人を育成。						
修了要件・履修方法	大学院に4年以上在学し、共通必修科目から6単位、共通選択科目から4単位以上、コース必修科目から16単位、コース選択科目から4単位以上、合計30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。						
履修科目等	<共通必修科目>がん基礎学講義（2単位）、ゲノム医学講義（2単位）、緩和ケア学講義（2単位） <コース必修科目>小児科学総論講義（4単位）、小児科学特論演習（4単位）、小児科学実習（8単位） <共通選択科目>腫瘍薬剤学講義（2単位）、放射線腫瘍学講義（2単位）、生命倫理学講義（2単位）、医療統計学演習（2単位） <コース選択科目>がん薬物療法学実習（4単位）、臨床腫瘍学実習（4単位）、がんゲノム医療学実習（4単位）、遺伝統計学実習（4単位）、血液内科学実習（4単位） 【チーム医療教育：小児科カンファレンスへの参加】						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	当院は滋賀県唯一の小児血液がん疾患の治療拠点病院であり、滋賀県における小児血液がん疾患については、診断、治療について幅広く対応しなければならない。当科においては、小児がん診療の専門スタッフが充実している。また、当科は血液がんだけでなく幅広い小児科の分野の専門スタッフもそろっており、包括的な診断と治療、サポートケア、さらに晩期合併症にいたるまで指導ができる。また、これまでがん細胞の分子遺伝学的解析をしてきた実績もあり、基礎的研究をもとに、新規の診断法・治療法を開発できる。上記目標に合致する医療人を育成する環境が整っている。						
指導体制	小児腫瘍グループスタッフ（小児血液・がん専門医、血液専門医）および滋賀医科大学小児科の他分野のスタッフが連携をとりながらon the job training、基礎研究、論文指導等を行う。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	<ul style="list-style-type: none"> ・小児血液がん専門医・指導医 ・国内外の血液・がんの研究機関へのポスドク留学 						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医学専攻 博士課程	1	1	1	1	1	5
	計	1	1	1	1	1	5

教育プログラム・コースの概要

大学名等	大阪医科大学大学院医学科						
教育プログラム・コース名	希少がんに関する放射線治療を担う人材養成コース						
対象者	医学専攻 博士課程						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	希少がんに関連するIGRT、IMRTなど新しい放射線治療技術を取得でき、国際的に活躍できる人材 放射線治療の希少がんにおいて、患者の生命予後だけでなく生活予後にも配慮した治療を行う事が出来る人材						
修了要件・履修方法	所定の授業単位31単位以上（統合講義10単位、基礎研究法実習1単位含む）を習得するとともに、必要な研究指導を受けた上、希少がんも考慮した放射線治療関連の学位論文を提出し、かつ最終試験に合格すること。カンサーボードへの参加、骨転移カンファレンスへの参加、妊孕性温存カンファレンスへの参加、三島圏多職種癌研究会への参加発表を行う。						
履修科目等	<必修科目> 統合講義10単位、基礎研究法実習1単位、講義（4単位）、演習（4単位）実習（12単位）						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	希少がん等含めた放射線治療に必須な腫瘍学等の基本事項について履修し、地域がん診療拠点病院して指定されている附属病院や連携病院等で最新の治療技術の習得を行い、希少がんに関する放射線診断・IVRと放射線治療の両グループで連携して教育を行う。 チーム医療教育として、がんセンターで開催する研究会カンファレンス、多職種からなるカンサーボードに参加し、附属病院、連携病院、関連病院から希少癌がん等を含めたチーム医療教育の中で、最新の治療方法の習得を行う。						
指導体制	放射線医学教室は診療科としても放射線診断科と放射線治療科として位置付けられており、附属病院に加えて連携病院等との診療教育体制の中で、研究会カンファレンス等を定期的で開催して指導している。またがんセンターでの多職種カンファレンスに参加し最新の医療技術含めた情報が指導体制の一環で機能して体制の一翼を担う。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	がん拠点病院で最新の放射線治療に関する診療・研究を行い、放射線専門医取得を目指す。						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医学専攻 博士課程	1	1	1	1	1	5
	計	1	1	1	1	1	5

教育プログラム・コースの概要

大学名等	京都大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成						
対象者	医学専攻博士課程						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	ライフステージに応じて生じる多様なニーズは外科系のがん診療、集学的診療において多数存在する。精緻な外科治療、様々な比較的稀な疾患（神経内分泌性腫瘍など）の治療、整容性を考慮した局所療法、妊孕性を温存する治療法、個別化集学的治療法などを研究、探索し、若年者、高齢者のがん治療の改善に取り組むがん専門医療人を養成する。将来、新たな外科治療の創出や機器開発などを担えるがん治療専門医療人を養成する。						
修了要件・履修方法	医学研究科博士課程に4年間以上在学し、計30単位以上を修得して、医学研究科の博士論文の審査及び試験に合格すること。また、腫瘍学のコースなど必修6単位を修得する。						
履修科目等	研究指導科目24単位と大学院教育コース6単位（腫瘍学コース、ゲノム・オミックス統計解析コース、医工情報学連携コースより）を取得すること。 チーム医療教育：肝胆膵移植外科、消化器外科、乳腺外科、呼吸器外科、脳外科、泌尿器科等で開催されるカンファレンス、症例検討会、勉強会などに参加する。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	京都大学医学部附属病院、先端医療機器開発・臨床研究センター、臨床研究総合センターなどで、分野横断的教育、研究の実施が可能、臨床試験の立案、実施が可能である。イメージガイド下手術、低侵襲性局所治療、ロボット、バイオマーカーの開発、AIなどの教育研究が可能である。腫瘍学コースなど充実した教育プログラムがある。						
指導体制	高い専門性を持つ外科医、呼吸器外科医、脳外科医、泌尿器科医を教育、養成できる専門教員は豊富で、各領域において、ライフステージに応じた多様なニーズに対して、的確に対応し研究指導が出来る環境は十分に整備されている。集学的診療、チーム医療について学ぶ機会、体制が準備されている。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	新たなエビデンスを創出できる研究者として大学、研究所、がん専門病院研究施設などでキャリアを積む。次世代のがん専門医療人材を育成する教育者としてのキャリアを大学、がん専門病院などで積む。各専門領域で専門医資格などの資格を取得する。						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医学専攻博士課程	4	4	4	4	4	20
	計	4	4	4	4	4	20

教育プログラム・コースの概要

大学名等	京都大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成						
対象者	人間健康科学系専攻 修士課程・博士後期課程						
修業年限（期間）	2年（修士課程）、3年（博士後期課程）						
養成すべき人材像	研究と臨床実践をつなぐことができ、がんの急性期から、病態と治療内容、年齢や社会環境に応じた柔軟なリハビリテーション介入を行い、治療コンプライアンス、QOL、ひいては治療成績の向上に貢献できる医療人材（理学療法士、作業療法士）						
修了要件・履修方法	修士課程：2年以上在学し、30単位以上を修得し、がんリハビリテーションに関わる研究指導を受けて論文を作成し、修士論文の審査に合格すること 博士後期課程：3年以上在学し、16単位以上を修得し、がんリハビリテーションに関わる研究指導を受けて論文を作成し、博士論文の審査に合格すること						
履修科目等	<必修科目> 臨床腫瘍学（4単位）、人間健康科学特論（2単位） 等 <選択科目> 系統緩和医療学（6単位） 等						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	京都大学医学部附属病院・同医学研究科人間健康科学系専攻を中心に、外部のがん専門病院等と情報ネットワークを構築し、相互研修や臨床実践内容、研究内容の共有化を図る。チーム間連携により、先端医療から緩和ケアまで広い視野を持って貢献する医療人材を養成する。						
指導体制	人間健康科学系専攻には精神障害系・神経系・小児リハビリテーションなどの多岐にわたる専門教員が存在し、多様なステージに対応した介入実践・臨床研究指導を行うことができる。京都大学医学部附属病院で実際のがん患者のリハビリテーションに携わらせ、各がん腫ごとの合同カンファレンスやがんサポートチームなどのカンファレンスに参加することで、チーム医療の実際を学ばせる。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	がん患者のQOLの向上、治療成績の向上に貢献する専門職としてのキャリア（がん専門病院、がん拠点病院など） がんリハビリテーションに関する新たなエビデンスを構築できる研究者としてのキャリア（大学、研究所、がん専門病院研究施設など） 次世代のがん専門医療人材を育成する教育者としてのキャリア（大学、がん専門病院など）						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	人間健康科学系専攻 修士課程	1	1	1	1	1	5
	人間健康科学系専攻 博士後期課程	0	1	1	1	1	4
	計	1	2	2	2	2	9

教育プログラム・コースの概要

大学名等	京都大学大学院医学研究科 京都大学大学院薬学研究科
教育プログラム・コース名	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース
対象者	医学専攻博士課程 薬学専攻博士課程
修業年限（期間）	4年
養成すべき人材像	多様化するがん薬物療法および支持療法についての高度な知識を有し、グローバルな視点で各世代ごとのライフステージに応じた医療を実践できるがん専門薬剤師
修了要件・履修方法	<p><医学研究科博士課程> 分野科目24単位以上、大学院教育コース科目6単位以上、計30単位以上を履修するとともに、がん専門薬剤師コースの必須科目8単位を修得し学位論文の審査及び試験に合格すること。</p> <p><薬学研究科博士課程（4年制）> 分野科目8単位以上を履修するとともに、がん専門薬剤師コースの必須科目8単位を修得し学位論文の審査及び試験に合格すること。</p>
履修科目等	<p><必須科目> 臨床腫瘍学講義（4単位）、腫瘍薬剤学実習（2単位）、がん薬物療法学・緩和医療実習（2単位）</p> <p><選択科目> 医療統計学（2単位）、医療倫理学概論（2単位）、緩和医療学（2単位）</p> <p>チーム医療教育：他職種との合同カンファレンスへの参加</p>
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	近年のがん薬物治療は日進月歩である。これからのがん専門薬剤師には、国内外の最先端治療法についての最新の知識に基づき、多様化するがん薬物療法および支持療法の中から各世代の患者ごとに最適化された方法を選択・提案する能力が要求される。本プログラムは、国内および海外（MDアンダーソンがんセンターなど）での医療施設における短期研修を通して、複雑化するがん薬物療法および支持療法の薬剤選択アルゴリズムについて学ぶだけでなく、臨床における clinical question について積極的に調査・研究して答えを見出し、臨床現場に還元することができる薬剤師養成の取り組みである。また、副作用や効果の予測による個別化化学療法の研究者であり、かつ薬物チーム医療の先導者というバイリンガル医療人の養成という点も大きな特色である。

指導体制	<p>上述の通り、国内および海外（MDアンダーソンがんセンターなど）での医療施設における短期研修においては、臨床現場の最前線で活躍するがん専門薬剤師による指導体制を構築する。さらに、コース在籍中には、がんプロ大学院生に指導教員をマンツーマンでつけ、がん専門薬剤師資格の取得に必要な専門知識の習得を目指す。</p>						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	<p>日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師、日本医療薬学会認定薬剤師、日本薬剤師研修センター認定薬剤師あるいは日本臨床腫瘍薬学会外来がん治療認定薬剤師のいずれかの資格取得を目指す。また、卒後はチーム医療の中で他職種と連携しながらがん薬物療法・支持療法を実践し、教育する医療者（大学、がん診療連携拠点病院、病棟など）、がん薬物療法・支持療法を研究する医療者（大学、研究所、がん診療連携拠点病院など）となることを目指す。</p>						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医学研究科 博士課程	0	0	1	0	1	2
	薬学研究科 博士課程	1	1	1	1	1	5
	計	1	1	2	1	2	7

教育プログラム・コースの概要

大学名等	京都大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	ライフステージに応じた緩和ケアを実践する人材養成コース						
対象者	医学専攻博士課程、人間健康科学系専攻修士課程						
修業年限（期間）	4年（博士課程）、2年（修士課程）、						
養成すべき人材像	小児、AYA(Adolescent and Young Adult)世代、壮年、高齢者の各世代の患者とその家族に応じた苦痛や苦悩へのマネジメントとケアができる医療者。治療期からがん患者の身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな苦痛への対応と精神的支援を行い、治療成績とQOLの向上に寄与できる医療者						
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> ・医学専攻博士課程：医学研究科に4年以上在学し、分野科目から24単位以上、大学院教育コース「腫瘍学コース」、「ゲノム・オミックス統計解析コース」のいずれかのコース科目より6単位以上の合計30単位以上を修得し、研究指導を受け、かつ、医学研究科の行う博士論文の審査及び試験に合格すること。 ・人間健康科学系専攻修士課程：2年以上在学し、30単位以上を修得し、研究指導を受けて論文を作成し、修士論文の審査に合格すること。 						
履修科目等	<ul style="list-style-type: none"> ・医学専攻博士課程：「腫瘍学コース」、「ゲノム・オミックス統計解析コース」のいずれかのコース科目より6単位 臨床腫瘍学4単位、緩和医療学2単位、医療倫理学各論2単位、 ・人間健康科学系専攻修士課程修士課程：臨床腫瘍学4単位、緩和医療学2単位、 チーム医療教育：各診療科の合同カンファレンス、緩和ケアチームのカンファレンス 						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	緩和ケアチームや緩和ケア病棟での実習を通して多職種協働によるチーム医療の教育を実施する。						
指導体制	人間健康科学系専攻の緩和ケアの専門教員と京都大学医学部附属病院緩和ケアセンターの多職種チームのスタッフ（医師、看護師、薬剤師、作業療法士など）が指導する。各診療科の合同カンファレンスや緩和ケアチームのカンファレンスなどを通して教育する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	緩和ケアを実践する医療者（がん診療連携拠点病院、緩和ケアチーム、緩和ケア病棟など） 緩和ケアを教育する医療者（大学、がん診療連携拠点病院、緩和ケアチームなど） 緩和ケアを研究する医療者（大学、研究所、がん診療連携拠点病院など）						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医学専攻博士課程	1	1	1	1	1	5
	人間健康専攻修士課程	1	1	1	1	1	5
	計	2	2	2	2	2	10

教育プログラム・コースの概要

大学名等	京都大学大学院医学研究科
教育プログラム・コース名	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース
対象者	医学専攻博士課程、 人間健康科学系専攻博士後期過程
修業年限（期間）	4年 医学研究科 医学専攻 3年 医学研究科 人間健康科学系専攻 博士後期課程
養成すべき人材像	○放射線品質管理、放射線治療計画、放射線治療関連機器のアクセプタンスおよびコミッショニングの実践力 ○ライフステージに応じた個別化がん放射線治療のための新技術の開発力およびその成果を臨床に展開できる技量 ○高度で安全な放射線治療を可能とするチーム医療に貢献できる責任感および協調性
修了要件・履修方法	○共通：大学院教育コース「医工情報学連携コース」6単位を取得すること。博士論文の審査及び試験に合格すること。京都大学医学部附属病院における臨床研修を修了すること。医学物理士資格を取得すること。 ○医学研究科 医学専攻：4年以上在学し、分野科目から24単位以上取得すること。 ○医学研究科 人間健康科学系専攻 博士後期課程：3年以上在学し、分野科目から16単位以上取得すること。
履修科目等	大学院コースの医工情報学連携コース(6単位)、臨床腫瘍学(4単位)、医学物理学(1単位)、放射線治療計画・計測学実習(1単位)、医学放射線計測学(1単位)、解剖学(1単位)、生理学(1単位)、放射線医学物理学(1単位)、医用イメージング概論(1単位)、他 チーム医療教育：放射線治療科カンファレンス等
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	○放射線治療関連機器導入から放射線治療計画、放射線品質管理までの一連のフローをon the job training形式により実施 ○職種横断的研修体制によるチーム医療教育の実施 ○京大病院がんセンター外来がん診療部集学的診療ユニットを活用した臨床研修体制 ○日本放射線腫瘍学会認定施設であり、ライフステージに応じた最適な高精度放射線治療を実施 ○認定機構が定めた教育カリキュラムガイドラインに準拠した講義・臨床研修体制 ○ライフステージに応じた照射技術の開発と臨床展開（小児およびAYA世代がん患者に対する二次発がんや有害事象発生率の軽減を、壮年期がん患者に対しては就労サポートを、高齢者に対しては低侵襲を目的とした照射技術の開発と臨床展開）
指導体制	指導スタッフ：医学物理士、放射線治療医、診療放射線技師、看護師 指導形式：多職種による横断的講義・on the job training形式の実習・研究開発 指導内容：放射線治療学全般、放射線治療計画、放射線品質管理、ライフステージに応じた最先端放射線治療の研究開発および臨床展開
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	○大学病院、がんセンター、総合病院における医療専門職 ○大学の医学部・工学部、国研(放射線医学総合研究所など)における教育・研究職 ○国際原子力機関などの国際組織 ○国内外の医療機器企業

受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医学専攻 博士課程	1	0	1	0	1	3
	人間健康科学 系専攻 博士後期過程	1	0	1	0	1	3
	計	2	0	2	0	2	6

教育プログラム・コースの概要

大学名等	三重大学大学院医学系研究科						
教育プログラム・コース名	ライフステージに応じた放射線治療・集学的診療を実践する人材養成コース						
対象者	生命医科学専攻 博士課程						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	がん治療において、高精度放射線治療や粒子線治療の知識を修得し、各々の患者に対して最適な放射線治療を提供でき、また手術や薬物療法の知識も兼ね備えた最適な治療を検討できる人材を育成する。						
修了要件・履修方法	コース共通科目6単位以上、分野科目24単位以上、計30単位以上を履修し、本大学院学位論文審査に合格すること。						
履修科目等	<コース共通科目> 腫瘍学総論より2単位、腫瘍学各論より4単位、合計6単位。 <分野科目> 分野科目から2科目選択し、演習（12単位）、実験・実習（12単位）、合計24単位。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	通常の放射線治療に加え、高精度放射線治療やイメージガイド下の小線源治療の教育・研修を行う。また多職種からなるカンファレンスに参加し、チーム医療を実践する。研究面では、画像診断と放射線治療の予後や有害事象との関連などについて取り組んでいる。また粒子線治療施設と連携し、粒子線治療の研修及び研究を行っている。						
指導体制	高い専門性を持つ放射線治療科スタッフ（放射線治療専門医、医学物理士等）、および関連診療科の専門医による指導体制が準備されている。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	次世代を担う放射線治療医として大学病院・関連病院に勤務し診療にあたりるとともに、臨床研究を継続する。放射線治療専門医資格を取得する。						
受入開始時期	平成29年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	生命医科学専攻博士課程	1	1	1	1	1	5
	計	1	1	1	1	1	5

教育プログラム・コースの概要

大学名等	三重大学大学院医学系研究科						
教育プログラム・コース名	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース						
対象者	生命医科学専攻 博士課程						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	若年者、妊娠・出産期、更年期、初老期、老年期など、様々なライフステージに生じる多様なニーズに対応できる乳癌診療専門医療人を育成する。						
修了要件・履修方法	分野科目24単位、コース共通科目6単位以上、合計30単位以上を修得し、かつ必要な論文指導を受けた上で、本大学院が行う博士論文の審査および最終試験に合格すること。						
履修科目等	<コース共通科目> がん医療学総論(2単位)、がん医療学各論(4単位) <分野科目>以下の中から24単位以上を修得 乳腺腫瘍学総論(12単位)、乳腺疾患の手術療法(12単位)、乳腺疾患の診断(12単位)、乳癌の集学的治療(12単位) チーム医療教育：乳腺カンファランス・Tumor Boardなど多職種・多診療科によるカンファランスへの参加						
教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	外科系乳腺専門医と博士号の取得のためのトレーニングおよび研究を平行して行える。						
指導体制	ライフステージに応じた多様なニーズに対応できるようになるために、高い専門性を持つ乳腺外科医、腫瘍内科医、放射線治療医、放射線診断医、病理医、生殖医療チームによる指導体制が整備されている。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	大学やがん専門病院施設などで優れた臨床医・研究者として乳がん診療を担っていく医療人。各専門領域での専門医などの資格も取得する。						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	生命医科学専攻博士課程	1	1	1	1	1	5
	計	1	1	1	1	1	5

教育プログラム・コースの概要

大学名等	三重大学大学院医学系研究科						
教育プログラム・コース名	ライフステージおよびゲノム情報に応じた個別化医療を推進するがん専門薬剤師養成コース						
対象者	生命医科学専攻 博士課程						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	ゲノム情報やライフステージに応じたがん薬物治療を追求する研究能力を有し、チーム医療の中で、プロトコルに基づく薬物治療管理や処方提案を実践できるがん専門薬剤師を養成する。						
修了要件・履修方法	3年次までにコース共通科目である腫瘍学総論2単位、各論4単位、分野科目である医療薬剤学12単位、腫瘍薬効評価学12単位、計30単位以上を履修する。研究により博士課程の学位論文を作成し、最終審査に合格することにより大学院医学系研究科博士課程を修了する。						
履修科目等	<コース共通科目・必修> 腫瘍学総論（2単位）、腫瘍学各論（4単位） <分野科目・必修> 医療薬剤学演習・実験実習（12単位）、腫瘍薬効評価学演習・実験実習（12単位） チーム医療教育：緩和ケアチームや感染対策チーム、栄養サポートチーム、Tumor board等への参加						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	本コースは、医学系研究科博士課程での教育の上に、がん専門薬剤師として必要な知識や技能を習得できるコースであり、がんに特化した臓器横断的な薬剤管理指導の教育と実践、緩和ケアチームや感染対策チーム、栄養サポートチーム、Tumor board等への参加による他職種連携教育を実施する。また、ゲノム情報や薬物血中濃度を指標とした治療の個別化・適正化に関する臨床研究を行い、がん医療の向上に寄与するがん専門薬剤師を育成する。						
指導体制	薬剤部教員による研究指導、がん専門薬剤師を中心としたがん薬物療法に関連した高度な薬剤師業務の実践に関する指導を行う。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	医療現場における高度ながん薬物療法への貢献 がん医療、ゲノム薬理を理解した薬剤師として個別化医療の開発に貢献 がん医療、ゲノム薬理を理解したがん研究の教育指導者						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	生命医科学専攻 博士課程	1	1	1	1	1	5
	計	1	1	1	1	1	5

教育プログラム・コースの概要

大学名等	三重大学大学院医学系研究科						
教育プログラム・コース名	ライフステージに応じた集学的治療を担う腫瘍内科専門医養成コース						
対象者	生命医科学専攻博士課程						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	それぞれのライフステージに応じた全人的医療、他職種と連携するチーム医療、他の診療科、医療機関との垣根を越えた連携によるがん集学的治療、また、在宅医療も含めた幅広い地域医療を実践できる医療人を育成する。						
修了要件・履修方法	コース共通科目6単位以上、分野科目24単位以上、合計30単位以上を修得し、本大学院が行う学位論文審査に合格すること。						
履修科目等	<p><コース共通科目> 共通科目1の腫瘍学総論より2単位以上、共通科目2の腫瘍学各論より4単位以上、合計6単位以上を修得する。</p> <p><分野科目> 臓器別腫瘍学講義より2科目を選択し、その中から演習（12単位以上）、実験・実習（12単位以上）の計24単位以上を修得する。</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	がんプロ連携大学講師のE-learningによる最新のがん医療の講義、多職種が集まり症例検討を行うTumor boardへの参加、緩和ケアチーム、骨転移カンファレンス等への参加、がん拠点病院、在宅療養支援診療所での研修により、実践的な知識、技能を修得可能である。						
指導体制	高い専門性を持つ腫瘍内科医を教育、育成できる専門教員を有しており、それぞれの領域において、ライフステージに応じた多様なニーズに対する確に対応し、研究指導が可能な環境が整備されている。集学的医療、チーム医療について学ぶ機会、体制が準備されている。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	次世代を担う医療者としてのキャリアを、大学病院、関連病院などで積む。また、次世代のがん専門医療人材を育成する教育者としてのキャリアを、大学病院、関連病院などで積む。各専門領域において、専門医資格などの資格を取得する。						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	生命医科学専攻博士課程	1	1	1	1	1	5
	計	1	1	1	1	1	5

教育プログラム・コースの概要

大学名等	三重大学大学院医学系研究科						
教育プログラム・コース名	地域包括ケアのもとでライフステージに対応したがん医療を担う看護師養成コース						
対象者	看護学専攻博士前期課程						
修業年限（期間）	2年						
養成すべき人材像	地域包括ケアの時代に、対象のニーズに合ったがん医療を提供するためには、チーム医療が重要であり、その中でも専門的知識・技術を備え多職種と連携・協働できる看護師が求められている。このコースでは2種の看護職を養成する。その1つは、①臨床現場で解決困難な看護問題に挑戦するがん看護専門看護師であり(CNSコース)、他の1つは、②がん看護に関する実践力・教育力・研究力を備え、病院や地域で現任教育に携わる看護師である(論文コース)。						
修了要件・履修方法	CNSコースでは、共通科目16単位以上、専門科目12単位、がん看護実習7単位、看護学特別研究(課題研究)6単位を修得し、学位論文審査に合格すること。論文コースでは、共通科目8単位以上、専門科目12単位、看護学特別研究10単位を修得し、学位論文審査に合格すること。						
履修科目等	看護共通科目：看護理論、看護研究法、看護倫理、看護コンサルテーション論、看護管理学、看護生涯教育論等 各2単位 専門科目：がん看護対象論ⅠⅡⅢ(計6単位)、がん看護援助論ⅠⅡⅢ(計6単位)、がん看護実習(7単位)、看護学特別研究(6単位もしくは10単位)						
教育内容の特色等(新規性・独創性等)	このコースでは、本看護学専攻出身のがん看護専門看護師が運営する三重CNS会と連携した学習会を定期的に行うことにより、大学院生に、より実践的な学習機会を提供している。また、三重県内の7病院をインターネットで結んだ多職種カンファレンスにも参加しチーム医療を実践的に学び、地域包括ケアの時代において、がん看護専門看護師としての役割開発と、地域における保健・医療・福祉ネットワークを構築するための基盤となる教育を行っている。						
指導体制	CNSコースについては、日本看護系大学協議会の高度実践看護師教育課程として認定されている。大学院の講義・演習科目については、医学系研究科の教授・准教授・助教、附属病院の医師、専門看護師等および非常勤講師により教授する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	CNSコース修了者は、その後6ヶ月以上臨床実践を重ねた上で、がん看護専門看護師(日本看護協会)の認定をめざす。認定後は、専門看護師としてがん看護の質向上に貢献する。論文コース修了者は、現任教育としてがん看護の質向上に携わる。両修了生らは、それぞれの場で研鑽を積み、さらに自らの課題を探究する場合には、看護学専攻博士課程においてさらに学ぶことができる。						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	看護学専攻博士前期課程	2	2	2	2	2	10
	計	2	2	2	2	2	10

教育プログラム・コースの概要

大学名等	滋賀医科大学大学院医学系研究科						
教育プログラム・コース名	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース						
対象者	医学専攻 博士課程						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	ライフステージに応じた、基礎・臨床腫瘍学の概念を習得し探究する視点と技術を備えるとともに、遺伝性疾患の理解や社会医学と他領域の知識を兼ね備えた全人的医療を行う人材						
修了要件・履修方法	大学院に4年以上在学し、共通必修科目から6単位、共通選択科目から4単位以上、コース必修科目から16単位、コース選択科目から4単位以上、合計30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。						
履修科目等	<共通必修科目>がん基礎学講義（2単位）、ゲノム医学講義（2単位）、緩和ケア学講義（2単位） <コース必修科目>がん病態制御学総論講義（4単位）、がん病態制御学特論演習（4単位）、がん病態制御学実習（8単位） <共通選択科目>腫瘍薬剤学講義（2単位）、放射線腫瘍学講義（2単位）、生命倫理学講義（2単位）、医療統計学演習（2単位） <コース選択科目>生体物理医学実習（4単位）、免疫学実習（4単位）、遺伝子工学実習（4単位）、組織工学実習（4単位）、呼吸器内科学実習（4単位）、ほか17科目 【チーム医療教育：消化器外科カンファレンスへの参加】						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	滋賀医科大学医学部附属病院では特にAYA世代、および、遺伝性腫瘍カウンセリング、がん・生殖医療に特化した医療に重点的に取り組んでおり、妊孕性温存に関しては滋賀県内でのネットワーク構築と、受精卵だけでなく卵巣凍結など種々の方法での妊孕性温存を行っている。罹患率第1位で増加し続ける乳癌に代表されるようにAYA世代ならびにその前後世代のがん患者に対しては、高齢者のがん診療とは異なった問題点を有しており、がん診療において医療の推進と地域医療を支えるための専門医充実が望まれる。さらに、治療成績の向上により伴うサバイバーシップ（遺伝性がん疾患、がん・生殖医療など）を理解し適切なチーム医療を提供、実践し、その新たな医療の研究能力を備える人材の養成が急務である。						
指導体制	滋賀医科大学の教員による講義、実習、研究指導						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージに応じたがん診療の実践と体制整備への貢献 ・AYA世代を中心とした妊孕性温存に関する諸問題への取り組み ・AYA世代に対する就労支援 ・臨床遺伝専門医制度委員会の臨床遺伝専門医、日本臨床腫瘍学会のがん薬物療法専門医などへの修練へ継続することも可能 						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医学専攻 大学院生	1	1	1	1	1	5
	計	1	1	1	1	1	5

教育プログラム・コースの概要

大学名等	大阪医科大学大学院医学科医学専攻						
教育プログラム・コース名	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース						
対象者	医学専攻 大学院生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	ライフステージに応じて、様々な治療選択枝が存在する。アドバンスドケアプランニングを治療開始時期から行い、集学的治療の中で若年患者の妊孕性温存、患者および家族の遺伝性疾患に関するカウンセリング、高齢者の理解力・体力に応じたがん薬物療法を行える人材 unmet medical needs を考え自ら臨床試験を企画遂行できる人材。						
修了要件・履修方法	所定の授業単位31単位以上（統合講義10単位、基礎研究法実習1単位含む）を習得するとともに、必要な研究指導を受けた上、学位論文を提出し、かつ最終試験に合格すること。キャンサーボードへの参加、骨転移カンファレンスへの参加、妊孕性温存カンファレンスへの参加、三島圏多職種癌研究会への参加発表を行う。						
履修科目等	<必修科目> 統合講義10単位、基礎研究法実習1単位、講義（4単位）、演習（4単位）実習（12単位）						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	地域がん診療拠点病院として指定されている附属病院や連携病院の協力により、チーム医療教育として緩和ケアチームやがん相談支援センターと密接に連携し、緩和ケアチーム活動やキャンサーボードに積極的に参加できることが可能である。多くの多施設共同研究に参画し研鑽することによりがん薬物療法の臨床試験のプロトコール作成が可能となる。在宅医との連携により在宅での化学療法副作用対策、看取りの経験を積むことにより全人的がん医療を学ぶことができる。						
指導体制	化学療法センターや大学の基礎研究分野の研究機構等において多方面におけるスタッフのもと、カンファレンスやチーム医療を通じて教育が行われる。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	次世代のがん専門医医療人材に関するキャリアを大学、附属病院、関連病院において積み、専門医資格等の資格を取得する。						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医学専攻 博士課程	1	1	1	1	1	5
	計	1	1	1	1	1	5

教育プログラム・コースの概要

大学名等	京都薬科大学大学院薬学研究科						
教育プログラム・コース名	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース						
対象者	薬学専攻博士課程大学院生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	がん薬物療法の様々な学術分野に関する高度な専門知識と基礎的又は臨床的薬学研究能力を有し、患者のライフステージ（主に「壮年」・「高齢者」）に応じたテーラーメイド医療を実践できる臨床薬剤師を養成する。特に地域包括ケアシステムにおけるがん薬物治療において指導的役割を果たし、高度で先進的な在宅医療の基盤となるエビデンス構築を担う研究スキルを備えた薬剤師の養成を目指す。						
修了要件・履修方法	4年以上博士課程に在学し、32単位以上を修得する。単位の内訳は課題研究20単位、薬学研究演習4単位、特論6単位、総合薬学セミナー2単位とする。さらに論文指導を受けた上で博士論文の審査および最終試験に合格すること。						
履修科目等	<p><必修科目> 創薬科学特論1（1単位）、生命分子科学特論1（1単位）、生命分子科学特論2（1単位）、分子病態学特論2（1単位）、医薬品評価科学特論（1単位）、研究倫理特論（1単位）、総合薬学セミナー（2単位）、薬学研究演習（4単位）、課題研究（20単位）※ 計32単位</p> <p>※本コースのチーム医療教育を学ぶ課題研究には、連携大学病院薬剤部又は地域連携医療機関の医療従事者（医師、薬剤師、看護師等）の実習指導を受ける「大学院・病院連携プログラム」、および「地域在宅医療プログラム」（2単位）を含む。</p> <p><自由科目> 臨床薬学特論 他</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	薬系大学院と大学病院・地域薬局との連携による薬剤師を対象とした効率的な一貫教育システムを構築し、薬学の専門性を基盤として地域包括ケアシステムにおけるライフステージ（主に壮年・高齢者）に応じたがん治療の中心的役割を担う薬剤師の育成を特色とする。既存のテーラーメイドがん治療の進展に資する「がん専門医療人材」の育成コースを発展させ、中核病院とかかりつけ薬局の両方において科学的基盤を構築できる人材養成を目指す。薬系大学院において研究手法（研究デザインや遺伝子解析法など）を修得し、地域医療ネットワークにおいて医療人であり研究者としても活躍できる薬剤師の育成を特徴としている。						
指導体制	大学では、大学院指導教員の教育研究指導を受ける。 学外での各プログラムにおいては、連携大学病院薬剤部又は地域連携医療機関の医療従事者（医師、薬剤師、看護師等）の実習指導を受ける。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	<ul style="list-style-type: none"> ・専門知識と学位を有する薬剤師として、病院や地域薬局においてキャリアを積む。 ・がん薬物療法や緩和医療、在宅医療に係わるがん専門薬剤師。 ・当該領域における後進の育成に寄与するがん指導薬剤師。 ・がん薬物療法や緩和医療、在宅医療に関する新たなエビデンスを創出する研究者及び大学などにおける教育者。 						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院博士課程	1	1	1	1	1	5
	計	1	1	1	1	1	5

教育プログラム・コースの概要

大学名等	京都大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	がん免疫療法と新規分子標的薬・生物製剤治療を担う医療人育成コース（インテンシブコース）						
対象者	市中病院及び大学病院においてがん化学療法に関わる医師、看護師、薬剤師						
修業年限（期間）	3回/年開催						
養成すべき人材像	がん免疫療法、新規分子標的薬・生物製剤治療に精通した地域の中核病院の医師、看護師、薬剤師						
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業で開催するセミナーやシンポジウムに参加すること。 ・本事業または関連する事業で実施するトレーニングコースに参加すること。 						
履修科目等	臨床腫瘍学全般、臨床腫瘍薬理学全般、						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	がん免疫療法に関する有害事象はさまざまな臓器に発生するため、そのマネジメントが重要である。本コースでは、様々な有害事象に対する予防と対策に関するセミナーや講習会を開催し、多領域にわたる知識を共有できる学習に機会を提供する。						
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> ・京都大学および連携大学の教職員による講義、実習、研究指導 						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	<ul style="list-style-type: none"> ・市中病院及び大学病院においてがん化学療法に関わる医師、看護師、薬剤師 						
受入開始時期							
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医師	5	5	5	5	5	25
	看護師	5	5	5	5	5	25
	薬剤師	5	5	5	5	5	25
	計	15	15	15	15	15	75

教育プログラム・コースの概要

大学名等	京都大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	高度放射線治療を担う人材養成コース(インテンシブ)						
対象者	がんの放射線治療に携わる医師・医学物理士・診療放射線技師						
修業年限(期間)	①1日 ②2日～1週間 ③数か月～1年						
養成すべき人材像	がんに対する放射線治療の臨床診療を、最新の知見に基づいた高精度放射線治療を主導的に展開できる人材。						
修了要件・履修方法	所定の講義・実習の受講						
履修科目等	放射線治療に必要な腫瘍学、医学物理学、生物学に知識を総合的に習得するための講義または実習 ①症例検討会形式のセミナー ②マンツーマン形式の短期実習 ③マンツーマン形式の中長期実習						
教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	最新の知見に基づいた高精度放射線治療に関する高い知識と技術の修得を目指す。 同時に高精度放射線治療へのニーズを把握することで、個別化がん放射線治療のための新技術を模索する。						
指導体制	①症例検討会形式のセミナー 提示された症例の治療法に対して、教育プログラム・コースに在籍する放射線治療医(大学院生)が討議者を務め、当院放射線治療科の治療方針を例示する。これにより、セミナー参加施設に対して最新の知見に基づいた放射線治療法の提示が可能となる。また、討議者と参加者間で様々な議論が展開されることにより、両者の知識も深まる。 ②マンツーマン形式の短期実習・③マンツーマン形式の中長期実習 高精度放射線治療に必要な知識と技術の修得を目的とし、放射線治療医・医学物理士・診療放射線技師による講義およびon the job training形式の実習を実施する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	高精度放射線治療の均てん化と治療成績の向上による地域医療への貢献。 市中病院への最新知識・技術の還元。 市中病院を通じた本プロジェクトの取り組みの周知。						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	①医師・医学物理士・診療放射線技師	40	40	40	40	40	200
	②医師・医学物理士・診療放射線技師	5	5	5	5	5	25
	③医師・医学物理士・診療放射線技師	5	5	5	5	5	25
	計	50	50	50	50	50	250

教育プログラム・コースの概要

大学名等	京都大学医学研究科及び薬学研究科						
教育プログラム・コース名	地域がん医療における病院-薬局-在宅の連携強化・推進に取り組む薬剤師養成コース(インテンシブ)						
対象者	市中病院・薬局勤務の薬剤師および大学教員・学生						
修業年限(期間)	① 研修会(1日間) ② 講演会(1日間)						
養成すべき人材像	地域がん医療における病院-薬局-在宅の連携を強化するとともに、最先端のがん化学療法・緩和ケア・支持療法を理解して薬学的観点からがん研究・学術調査を自ら推進し、エビデンスを構築することができるがんプロフェッショナル薬剤師。						
修了要件・履修方法	所定の研修会・講習会の受講。						
履修科目等	臨床腫瘍学(がん化学療法、緩和ケア、支持療法を含む)。 ① 研修会形式のインテンシブコース(京大病院医薬分業研修会) ② 講演会形式のインテンシブコース						
教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	本インテンシブコースは、がん化学療法・緩和ケア・支持療法を含む充実した教育内容であり、既存のがん専門薬剤師インテンシブコースとは異なり、日本薬剤師会・日本病院薬剤師会による生涯研修としての認定を受けて実施する。地域の薬局と病院に勤務する薬剤師や大学教員・学生が一つに集まり、がん専門薬剤師や医師を含めて日常のがん診療における問題点やアンメットニーズを把握して、薬学的観点からがん医療の質的向上を目指す特色を有する。特に、特別講演では臨床の最前線で活躍する腫瘍内科医を招き、米国臨床腫瘍学会年会(ASCO)や欧州臨床腫瘍学会年会(ESMO)におけるトピックスを含めた、がん薬物療法の最新動向に関する情報を収集することができる教育内容となっている。このように討議者と参加者間で様々な議論が展開されることによって、両者の知識も深まり、またトレーシングレポートを介した薬薬連携の強化、保険薬局が取り組むプライマリーケアの推進に繋がる。						
指導体制	① 研修会形式のセミナー 当院に在籍するがん専門薬剤師が討議者を務め、当院における症例を例示し検討会を実施する。また、当院における様々な取り組み、患者への服薬指導のポイント、トレーシングレポート記載のポイントについて紹介したり、各保険薬局に問題点を挙げてもらいディスカッションを行う。 ② 講習会形式のセミナー がん治療関連領域の最前線で活躍する医師を講師として招き、米国臨床腫瘍学会年会(ASCO)や欧州臨床腫瘍学会年会(ESMO)におけるトピックスを含めた、がん薬物療法の最新動向について講演をしてもらう。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	がん薬物療法の最新知識を有した、がん医療の地域形成と均てん化に貢献する薬剤師、病院-薬局-在宅の連携に基づいたプライマリーケアを推進する薬剤師						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	① 研修会形式のセミナー	100	100	100	100	100	500
	② 講習会形式のセミナー	100	100	100	100	100	500
	計	200	200	200	200	200	1,000

教育プログラム・コースの概要

大学名等	京都大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	様々なニーズに対応できるがん化学療法チーム養成コース(インテンシブコース)						
対象者	市中病院及び大学病院においてがん化学療法に関わる医師、看護師、薬剤師						
修業年限(期間)	2日・5回/年						
養成すべき人材像	抗がん薬に関する最新かつ高度な専門的知識が必要とされる各地域の中核的病院の医師、看護師、薬剤師からなるがん化学療法診療チーム。						
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業で開催するセミナーやシンポジウムに参加すること。 ・本事業または関連する事業で実施するトレーニングコースに参加すること。 						
履修科目等	臨床腫瘍学全般、臨床腫瘍薬理学全般、						
教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	<p>医師・薬剤師・看護師各1名の計3名1組が参加し、様々ながんの化学療法に関連する講義と、実務の見学及びその学習を行った上で、自施設の現状評価と問題点の抽出を抽出し、その解決方法を具体的に検討発表し、参加施設間での議論を深め、年1回開催のフォローアップ研修で再評価を行う。</p> <p>臓器障害や様々な合併症を有するがん患者に対する抗がん薬治療について学習する。</p> <p>がん免疫療法に関する有害事象対策に関するチーム医療を学習する。</p>						
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> ・京都大学および連携大学の教職員による講義、実習、研究指導 						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	<ul style="list-style-type: none"> ・市中病院及び大学病院においてがん化学療法に関わる医師、看護師、薬剤師の医療チームのリーダー ・がん拠点病院などの医療機関へのキャリアパス 						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医師	10	10	10	10	10	50
	看護師	10	10	10	10	10	50
	薬剤師	10	10	10	10	10	50
	計	30	30	30	30	30	150

教育プログラム・コースの概要

大学名等	京都大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	家族性腫瘍(遺伝子乳がん卵巣がん症候群やリンチ症候群など)に対応できる医療人育成コース(インテンシブコース)						
対象者	医学研究科大学院生、大学院研究者、遺伝カウンセラー、薬剤師、看護師						
修業年限(期間)	3回/年(セミナー、トレーニングコース)						
養成すべき人材像	ゲノム医療の臨床実装の中で遭遇する、偶発的所見・二次的所見を正しく理解し、適切に対応できる医療人が求められる。						
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業で開催するセミナーやシンポジウムに参加すること。 ・本事業または関連する事業で実施するトレーニングコースに参加すること。 						
履修科目等	遺伝性腫瘍の種類、原因遺伝子、頻度、臨床的対応法(予防や治療)など						
教育内容の特色等(新規性・独創性等)	京都大学附属病院では2015年4月よりわが国ではじめて網羅的がん遺伝子変異検査を臨床現場に導入し、ゲノム医療に必要な実践的ノウハウを蓄積している。網羅的遺伝子検査の結果について毎週1回、担当医、がん薬物療法専門医、臨床遺伝専門医、病理医、バイオインフォマティクス、遺伝カウンセラー、ゲノム基礎研究者、など多職種メンバーが集まるチームカンファレンスで検討している。これらの場を生かし、十分なon the job trainingを経験できるとともに、学内外のゲノム研究者、倫理研究者との連携による教育体制を構築し、臨床と基礎、社会医学と他領域の知識を兼ね備えた人材の育成が可能である。						
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> ・京都大学および連携大学の教職員による講義、実習、研究指導 						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床現場におけるゲノム医療の実践と体制整備への貢献 ・ゲノム医療を実践できる医療機関でのキャリアパス ・ゲノム医学の発展を目指した研究開発へ従事 						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医師	5	10	10	10	10	45
	薬剤師	5	5	5	5	5	25
	看護師	5	5	5	5	5	25
	研究者	5	5	5	5	5	25
	遺伝カウンセラー	5	5	5	5	5	25
	計	25	30	30	30	30	145

教育プログラム・コースの概要

大学名等	京都大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	ビッグデータ医科学を担う人材育成コース(インテンシブコース)						
対象者	医療従事者、生物学者						
修業年限(期間)	3回/年						
養成すべき人材像	様々な医療情報や生物学的情報の解析データが膨大になるとともにそれらを解析できる人材の育成。 医学、薬学や生物学に精通した上で、スーパーコンピューターや人工知能などを活用出来る人材育成。						
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業で開催するセミナーやシンポジウムに参加すること。 ・本事業または関連する事業で実施するトレーニングコースに参加すること。 						
履修科目等	ゲノム解析、プロテオミクス解析、バイオインフォマティクス、データサイエンス						
教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	医学や生物学領域でも膨大なデータ解析が必要となりそれらに対応できる人材が不足していることから、京都大学医学研究科では、組織改編の一貫として平成28年8月にビッグデータ医科学講座を新設し、医療分野におけるバイオインフォマティクスの高度な能力を有する人材育成を開始している。						
指導体制	・京都大学および連携大学の教職員による講義、実習、研究指導						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	<ul style="list-style-type: none"> ・医療、医学分野におけるビッグデータ解析ができる人材育成 ・他のアカデミアの教員としてのキャリアパス ・ゲノムやプロテオミクスなど新たな解析技術を要する研究機関や医療機関へのキャリアパス 						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医師	2	2	2	2	2	10
	研究者	5	5	5	5	5	25
	技術者	5	5	5	5	5	25
	計	12	12	12	12	12	60

教育プログラム・コースの概要

大学名等	京都大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	社会と交流できるがん相談支援者育成コース(インテンシブコース)						
対象者	医師、ソーシャルワーカー、薬剤師、看護師						
修業年限(期間)	3回/年						
養成すべき人材像	ライフステージで異なる多様なニーズに対応できる医療人およびソーシャルワーカー						
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業で開催するセミナーやシンポジウムに参加すること。 ・本事業または関連する事業で実施するトレーニングコースに参加すること。 						
履修科目等	臨床腫瘍学全般、社会医学全般						
教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	京都大学医学部附属病院では、国公立大学で初となるがんセンターを2007年より設立し、診療科および職種横断的ながん医療を提供している。その中で、がん相談室は、成人から小児までの多様な相談に対応し、毎月50-70件の相談実績を有している。また、厚労省のがん患者の就労支援事業にも参加している。がん相談員の育成にも医科らを入れており、患者に寄り添った相談体制を広げている。						
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> ・京都大学および連携大学の教職員による講義、実習、研究指導 						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床現場におけるがん患者相談窓口整備への貢献 ・がん拠点病院など相談室を設置する医療機関へのキャリアパス 						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医師	5	5	5	5	5	25
	ソーシャルワーカー	5	5	5	5	5	25
	看護師	5	5	5	5	5	25
	薬剤師	5	5	5	5	5	25
	計	20	20	20	20	20	100

教育プログラム・コースの概要

大学名等	三重大学大学院医学系研究科
教育プログラム・コース名	ゲノム情報を活用したがん診療に従事する人材養成（インテンシブコース）
対象者	がん診療に携わる医師
修業年限（期間）	2年
養成すべき人材像	従来、ゲノムは胚細胞変異、遺伝性疾患を取り扱うものとされていた。しかし、遺伝子解析技術の目覚ましい進化とともに、胚細胞変異・体細胞変異の境界が曖昧なものとなってきた。がん診療においても遺伝性腫瘍以外の腫瘍においてもゲノム情報が重要な役割を担うようになってきている。つまり、がん診療全てにおいて、ゲノム情報を活用することが必須となってきているが、担当できる人材が少ないのが現状である。このため、(1)臨床遺伝学を理解し、(2)この患者に対する診療計画を立案でき、(3)ゲノム検査結果を正しく解釈し、(4)正しい診断ができ、(5)治療へ活用できるかを判断し実践でき、また(6)二次的所見など起こりうる倫理的問題を解決できる人材が必要である。診療現場に必要なのは、座学だけでなく、実地診療の中でon the job trainingにより育成された人材であると思われる。
修了要件・履修方法	遺伝カウンセリングに10回以上陪席、遺伝カンファレンスに5回以上出席のこと。 その他、がんのゲノム医療に関する学会・研修会等に出席し、がんゲノムを説明できるようになること。
履修科目等	がん治療、臨床遺伝学、ゲノムバイオインフォマティクスに関係する学会、講習会、カンファレンスに参加することが求められる。 【遺伝カウンセリング】 臨床遺伝専門医取得に必要な遺伝カウンセリングに陪席、あるいはロールプレイ実習への参加。 【バイオインフォマティクス】 NGSを用いた実地演習（On the job training） 日本遺伝子診療学会遺伝情報講習会などへの参加 【カンファレンス】 遺伝カンファレンスに参加。 molecular tumor boardに参加。 【学術集会への出席】 ・日本臨床腫瘍学会 ・日本人類遺伝学会
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	三重大学医学部附属病院は、2005年にオーダーメイド医療部を新設し、ゲノム情報を活用した個別化医療の推進に努めてきた。毎年200-300件の遺伝学的検査を実施し、必要であれば遺伝カウンセリングを提供してきた。このように、検査前、後のフォローアップをシームレスに提供できる体制を構築している。最近、病院検査室内でNGSを用いたがんゲノム解析をも開始し、がんゲノム医療を検査、診断から治療、カウンセリングまでシームレスに実施できる体制を構築し、一貫した人材育成が可能となっている。

指導体制	がんセンターを中心としたがん医療体制の連系の中での指導。 三重大学医学部附属病院は臨床遺伝専門医認定研修施設であり、指導医の指導のもとに、NGS等の最新の医療機器を装備した病院検査室を活用したゲノム医療に携わる人材育成を実践する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	コース修了後、 ・臨床現場におけるゲノム医療のコアメンバーとなる ・ゲノム医療を実践できる人材育成のコアとなる ・ゲノム医療をさらに発展させるように研究・開発を実践する						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	がん診療に携わる医師	1	1	1	1	1	5
	計	1	1	1	1	1	5

教育プログラム・コースの概要

大学名等	三重大学医学部附属病院						
教育プログラム・コース名	ライフステージに応じた緩和ケアを実践できる人材育成コース (インテンシブコース)						
対象者	臨床経験を有し実践的な緩和ケアを学びたい医療従事者 (医師、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー、カウンセラー他)						
修業年限(期間)	2年						
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・チーム医療の実践を通して、小児、AYA世代、壮年、高齢者といった多様なライフステージごとに異なるがん患者とその家族の身体的苦痛・精神心理的苦痛・社会的苦痛・スピリチュアルな苦痛を包括的に評価しケアとマネジメントができる医療者。 ・チーム医療のマネジメント能力を有し、診断早期からエンドオブライフケア期にわたって地域での緩和ケアを適切に提供できる医療者。 ・多様なライフステージの患者とその家族の苦痛や苦悩に対応できるコミュニケーション能力を持つ医療者。 						
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> ・本コースで定める研修を修了すること 下記に掲げる必須研修修了に加えて、A群研修のうち一つを選択修了することもしくはB群セミナー・カンファレンスに4回以上出席すること 						
履修科目等	<p>【必須研修】</p> <p>①「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の開催指針」に準拠した緩和ケア研修会(2日間)</p> <p>【選択】・A群研修 (②～④のうち1つ研修を選択)</p> <p>②対人援助・スピリチュアルケア研修(3日間) 年1回</p> <p>③患者の意向を尊重した意思決定のための研修会(2日間) 年1回</p> <p>④がん医療に携わる医師に対するコミュニケーション技術研修会(2日間) 年1回</p> <p>・B群セミナー・カンファレンス ⑤～⑦のうち4つ以上に出席</p> <p>⑤早期からの緩和ケアを考える会 年1回</p> <p>⑥緩和ケアセミナー 年3回</p> <p>⑦緩和カンファレンス 毎週月曜日開催</p> <p>*履修例</p> <p>①修了+②修了、①修了+⑤出席+⑥3回出席、①修了+⑥2回出席+⑦2回出席</p>						
教育内容の特色等(新規性・独創性等)	一般的な緩和ケアを実践できることに加え、多様なライフステージの患者とその家族の苦痛や苦悩に対応できるコミュニケーション能力や意思決定支援に関する能力の向上に重点を置く。一般医療者にとっては対応が難しいとされるスピリチュアルペインについても、理論にもとづく研修受講と演習を通して宗教によらないケアの方法を学ぶことができ、全人的な包括ケアの臨床実践に活かすことができる。						
指導体制	指導担当：三重大学医学部附属病院緩和ケア科医師(緩和医療暫定指導医)ならびに緩和ケアセンターの多職種チームのスタッフ(医師、看護師、薬剤師、臨床心理士など) 多職種横断的研修会の受講、緩和ケアチーム活動ならびに多施設・多職種カンファレンスによるチーム医療と学際的アプローチの実践演習						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	緩和医療認定医の取得 がん拠点病院等地域医療機関での緩和ケアの実践的リーダーとなる						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医療従事者	20	20	20	20	20	100
	計	20	20	20	20	20	100

教育プログラム・コースの概要

大学名等	三重大学大学院医学系研究科生命医科学専攻						
教育プログラム・コース名	ライフステージ・地域特性に応じたがん治療を提供するがん治療医養成コース（インテンシブ）						
対象者	がん治療に携わる医師						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	臨床腫瘍学に習熟し、患者のライフステージ、各施設の地理性や医療資源を考慮して、患者に合わせたがん治療治療およびケアの方針を提案でき、患者および家族とその方針を共有することができるコミュニケーションスキルを有し、患者の社会背景に合わせた支援体制の構築をチームの一員として実践できる優れたがん治療医を目指す。						
修了要件・履修方法	がん治療に関わる認定医や専門医を取得済みであるあるいは取得が見込まれ、がん診療連携拠点病院が実施する緩和ケア研修会を修了したのちに、所定の講習会（6時間以上）を受講すること。						
履修科目等	がんに対する外科治療、薬物療法、放射線療法などのそれぞれの専門領域における所定の講習会（がんチーム医療研究会、治療早期からの集学的緩和ケアを考える会、三重骨転移セミナー、三重肺癌研究会、がんセンター主催セミナー）の受講。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	本コースでは標準的ながん治療を理解しており緩和ケア研修会を修了して基本的ながん緩和ケアの提供ができるがん治療のベースのある医師が、実践的な知識と技能の向上を目的として、コミュニケーションスキルや各施設において実施されている医療、各分野における先端医療について情報を得る機会を提供する。						
指導体制	本コースでは各領域において十分ながん治療経験を有する専門家による講義を行う。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コース修了者は、各地域におけるがん治療の中心的存在として、他の専門施設の協力も得る中で、患者の地域やライフステージを考慮して地域の医療資源を効率的に利用し、個々の患者に適切ながん治療を提供できる人材となると期待される。						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	がん治療に携わる医師	5	5	5	5	5	25
	計	5	5	5	5	5	25

教育プログラム・コースの概要

大学名等	三重大学大学院医学系研究科生命医科学専攻						
教育プログラム・コース名	地域のがん薬物治療を支える薬剤師養成コース（インテンシブ）						
対象者	がん医療に関わる保険薬局薬剤師、病院薬剤師						
修業年限（期間）	年2回（計8時間）						
養成すべき人材像	地域のがん医療に貢献する薬剤師						
修了要件・履修方法	三重大学がんセンター、三重大学医学部附属病院薬剤部が主催するがん薬物治療に関する研修会（4時間）を年2回（計8時間）受講する。						
履修科目等	肺がん、胃がん、大腸がん、乳がん、肝がん等に関するがん化学療法、支持療法について、研修会を受講する						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	地域の病診薬連携を強化するために、外来化学療法を受ける患者の処方せんを応需する保険薬局薬剤師を主な対象とし、処方意図の把握と疑義照会のポイントを学ぶことで、がん医療の均てん化に貢献することを目標としている。						
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> ・三重大学病院のがん専門医による疾患に関する講義 ・三重大学病院のがん専門薬剤師による支持療法に関する講義や症例提示 						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のがん治療（病診薬連携）を支える薬剤師として地域医療に貢献 ・保険薬局薬剤師が取得可能な日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師の取得 						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	薬剤師	30	30	30	30	30	150
	計	30	30	30	30	30	150

教育プログラム・コースの概要

大学名等	滋賀医科大学大学院医学系研究科						
教育プログラム・コース名	ライフステージに応じた包括的・全人的がん医療を担う医療従事者養成コース（インテンシブコース）						
対象者	医師、医療スタッフ等						
修業年限（期間）	3日／年						
養成すべき人材像	ライフステージに応じたがん医療の充実と均てん化を図るため、近年、複雑化、高度化するがん医療を支える人材の育成は重要な課題である。そこで、がん薬物療法、緩和ケア、リハビリテーション、地域連携、相談支援、がん登録、がん教育、先進的がん医療開発、チーム医療、その他の医療に携わる専門性の高い知識および技能を有する医師及び医療スタッフ等の育成を行う。						
修了要件・履修方法	講義、セミナー、実習の受講						
履修科目等	がん薬物療法、緩和ケア、リハビリテーション、地域連携、相談支援、がん登録、がん教育、先進的がん医療開発、チーム医療の講義、セミナー、実習						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	滋賀医科大学は先進的がん医療の実践や新たな医療の研究・開発を推進しており、独自の高度がん専門医療人の養成に向けた教育システムを利用したインテンシブコースを設置する。						
指導体制	滋賀医科大学及び連携機関の教員、医療スタッフ等による講義、セミナー、実習						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コース修了者は、最新の包括的・全人的がん医療を習得したがん専門医療従事者として地域のがん医療の質の向上に実務及び指導的立場で貢献することが期待される。						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医師、医療スタッフ等	3	3	3	3	3	15
	計	3	3	3	3	3	15

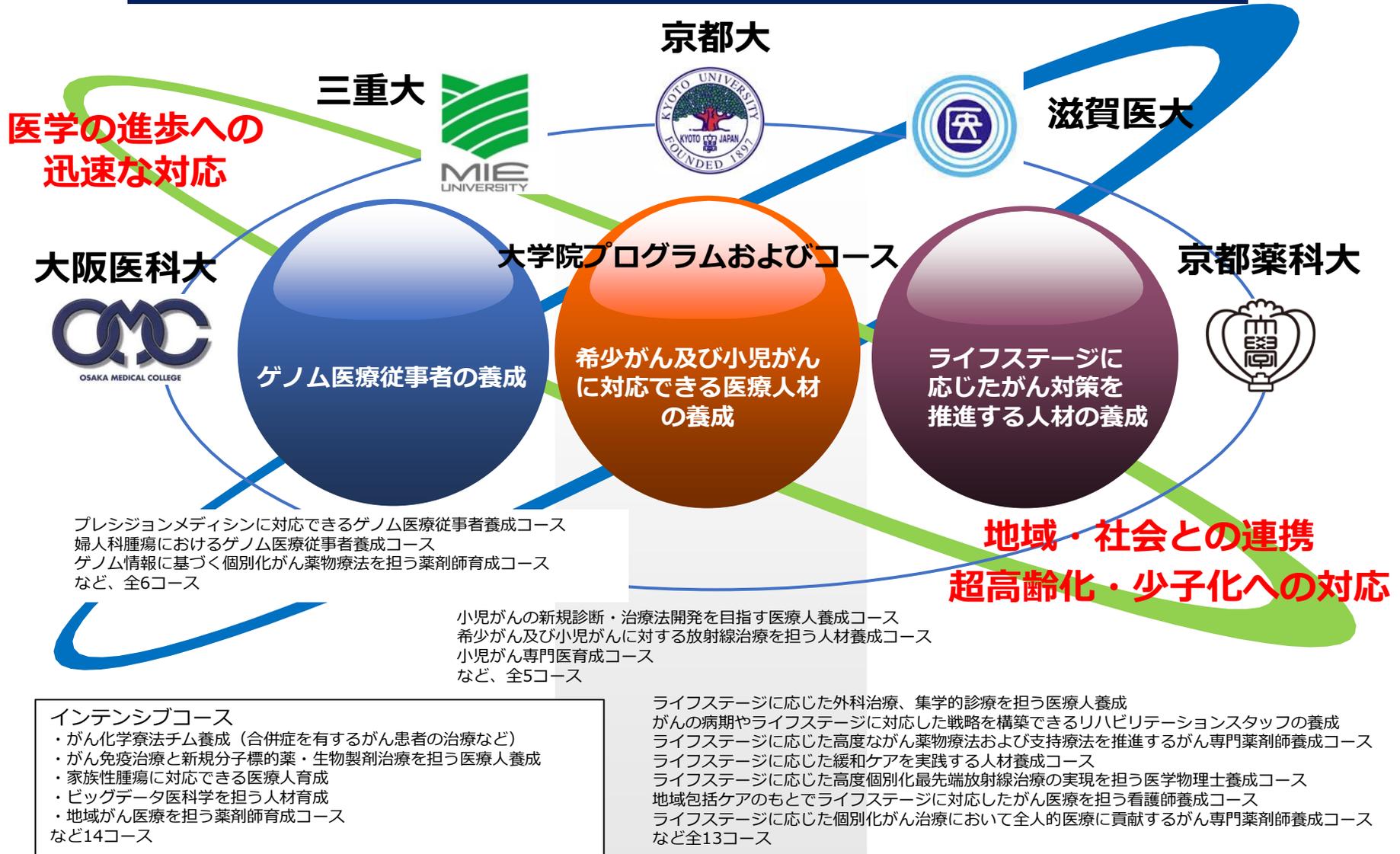
教育プログラム・コースの概要

大学名等	滋賀医科大学大学院医学系研究科						
教育プログラム・コース名	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース (インテンシブコース)						
対象者	病院薬剤師、薬局薬剤師						
修業年限(期間)	3日/年						
養成すべき人材像	抗がん薬の多様化が進み、対象患者や治療標的の細分化が進む昨今にあっては、個々の患者に合わせて最適な薬物及び投与量を決定する個別化薬物療法は非常に重要である。特定の抗がん薬ではゲノム情報の個別化薬物療法への応用が進んでいるものの、その情報を取り扱う薬剤師の知識や技術は充分とは言い難い。本コースでは、ゲノム情報を適切に解析し、臨床応用することができる薬剤師の養成を目指す。						
修了要件・履修方法	病院薬剤師や薬局薬剤師による個別化薬物療法セミナーの参加						
履修科目等	個別化薬物療法、ゲノム情報臨床応用セミナー						
教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	薬剤部では、ゲノム薬理学的解析に基づく個別化投与設計に関連する研究に加え、全国に先駆けて薬物代謝酵素などの遺伝子多型解析を薬剤業務の一環として行っている。本コースでは、病院・薬局薬剤師を対象としたゲノム解析研修やセミナーを予定している。地域で活躍する薬剤師に対してゲノム教育を行うことによって、ゲノム医療の裾野が広がることが期待される。						
指導体制	薬剤部でのゲノム薬理研究及び遺伝子多型解析業務の経験を活かし、ゲノム薬理学に精通した教職員が指導にあたる。またゲノム医療に精通した講師を招聘し、セミナーを実施する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コース修了者は、ゲノム情報を活用した、個別化がん薬物療法の実現に向けた地域医療の中核として活躍することが期待される。						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	病院薬剤師、 薬局薬剤師	10	10	10	10	10	50
	計	10	10	10	10	10	50

教育プログラム・コースの概要

大学名等	滋賀医科大学大学院医学系研究科						
教育プログラム・コース名	ライフステージに応じた集学的医療における放射線治療を担う医療従事者養成コース（インテンシブコース）						
対象者	医師、診療放射線技師						
修業年限（期間）	セミナー5日、短期実習1週間						
養成すべき人材像	小児から高齢者までの種々のライフステージ、および希少がんや血液がんも含めた幅広い癌種に対する集学的医療を理解し、高精度放射線治療や緩和放射線治療などの種々の放射線治療法を駆使して、最適の放射線治療が提供できる医療人						
修了要件・履修方法	講義およびセミナー、実習への参加						
履修科目等	1. 講義およびセミナー 2. 短期実習						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	大学病院において実施されている高精度放射線治療や全身照射、さらに緩和照射の知識や技能を学ぶとともに、癌の種類や病期、患者の年齢や状態によって変化する集学的医療を理解する事によって、個々の患者に最適な放射線治療を提供できる能力を高めることを目指す。						
指導体制	放射線医学講座教員、腫瘍内科教員、血液内科教員、小児科教員						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	医療機関の放射線治療を担当する放射線治療医や放射線治療技師として、その病院におけるCancer Boardの中心メンバーとして医療に貢献する。						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医師	1	1	1	1	1	5
	診療放射線技師	1	1	1	1	1	5
	計	2	2	2	2	2	10

高度がん医療を先導するがん医療人養成プログラム



多様なニーズに対応できるがん専門医療人の輩出と教育プログラムの確立

（医師、薬剤師、看護師、放射線物理士、遺伝カウンセラー、ソーシャルワーカー、データサイエンティストなど）